

日本初の全数調査による 心不全統計

—国保連合会のレセプトデータを活用して—

北海道国民健康保険団体連合会
医療介護連携支援企画本部

伊藤 一輔
出光 英哉

体重急増は
心臓のSOS



演題発表に関連し、開示すべきCOI
関係にある企業などはありません。

背景

高齢化に伴い心不全患者が急増している(心不全パンデミック)が、全数調査がなく、正確な罹患状況は不明である。

一方、国民健康保険団体連合会には詳細な **レセプトデータ** が蓄積されている。

目的

レセプトデータを活用した全数調査を行って、
北海道の **心不全罹患状況** を明らかにする。

【対象としたレセプト】

2022年1月診療分から2023年12月診療分までの2年間の
北海道後期高齢者医療における入院レセプト（約160万件）

【抽出条件】

入院病名に心不全又は基礎心疾患があり、かつ、
入院直後に利尿薬の注射投与があるもの
を心不全急性増悪による入院として抽出した。

入院レセプトは月ごとに作成されているが、入院件数は複数月にわたる入院を連結して1件の入院とした。

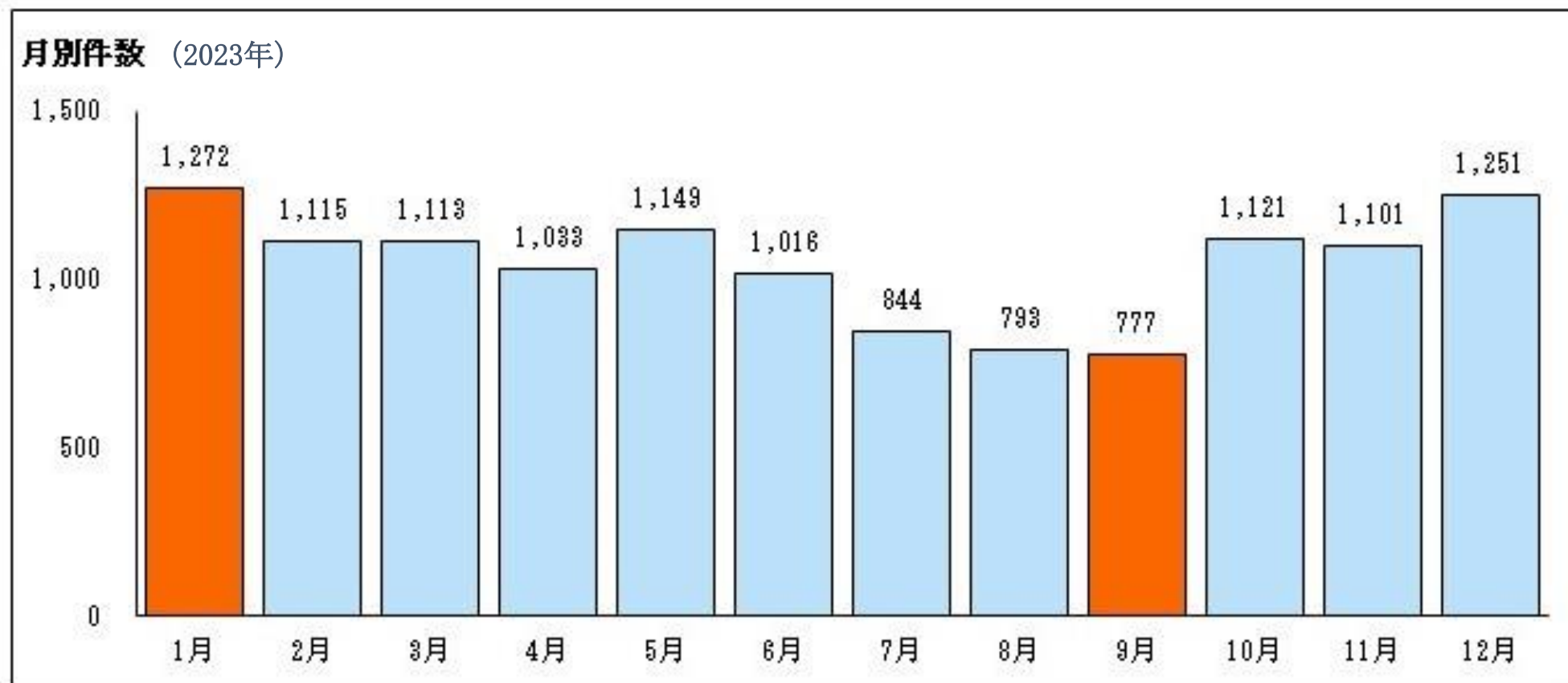
結果 1：年次推移

心不全急性増悪による入院件数は、被保険者数の伸びを上回る率で伸びている。

年	被保険者数(人)	入院レセプト全件数 (件)	心疾患の病名のある入院件数(件)	心不全急性増悪による入院件数 (件)	左に占める割合
2022	847,160	770,364	81,901	12,005	(14.7 %)
2023	867,248	811,966	90,774	12,585	(13.9 %)
伸び率 2023/2022	102.4 %	105.4 %	110.8 %	104.8 %	

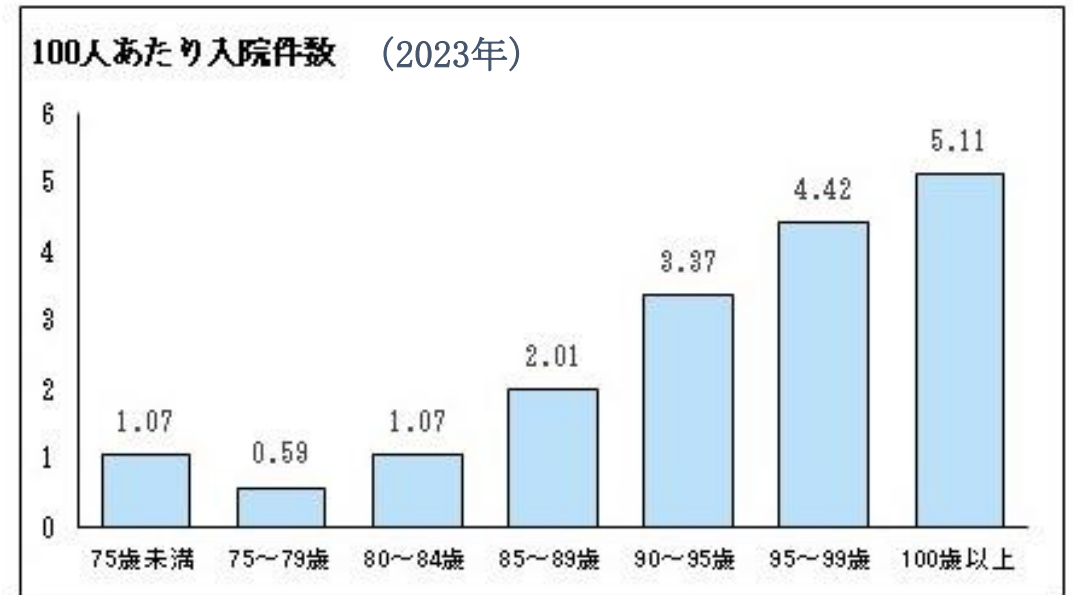
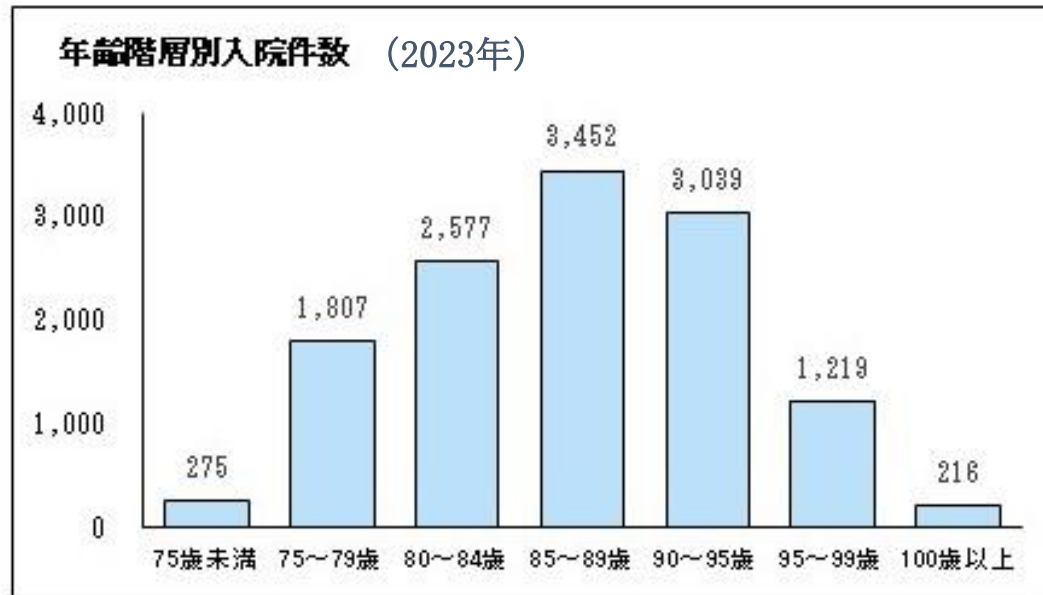
結果 2：月別推移

月別の入院件数は、夏期に比べて冬期が多く、最も多い1月は、最も少ない9月の1.6倍である。



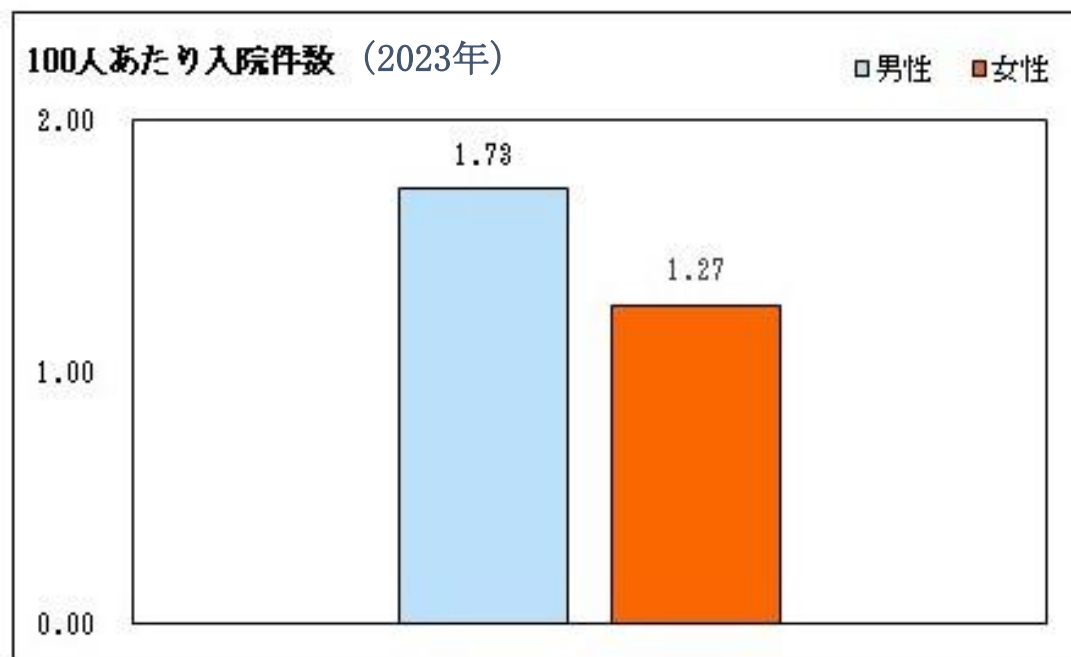
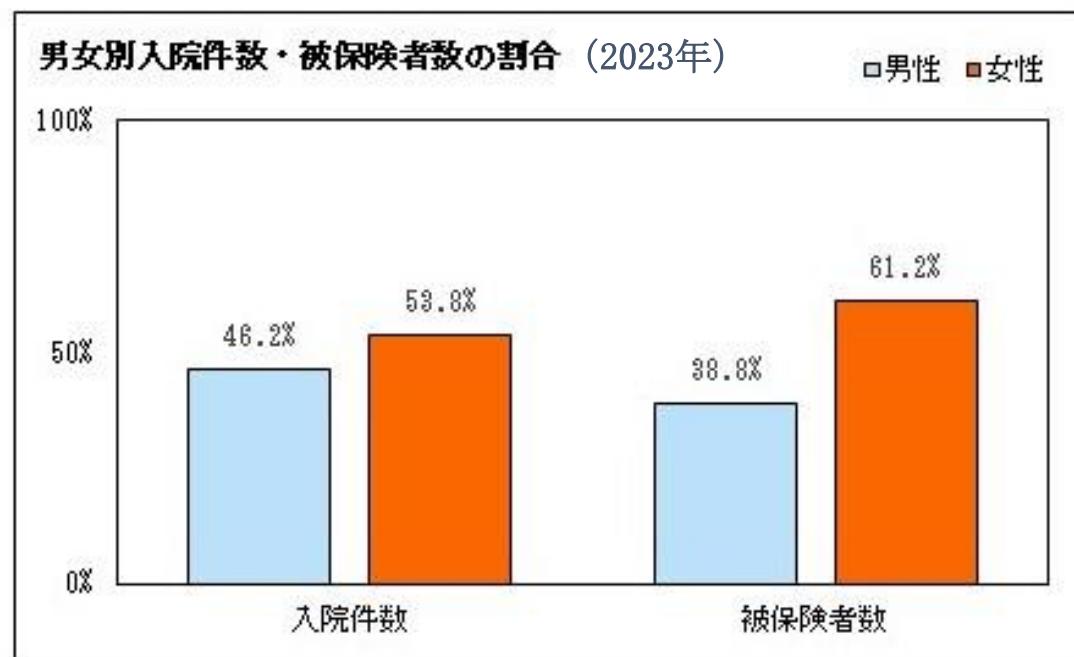
結果 3：年齢階層別状況

年齢階層別の入院件数は 80代後半が最も多いが、被保険者100人あたりの件数は年齢層が高くなるほど直線的に増加する。



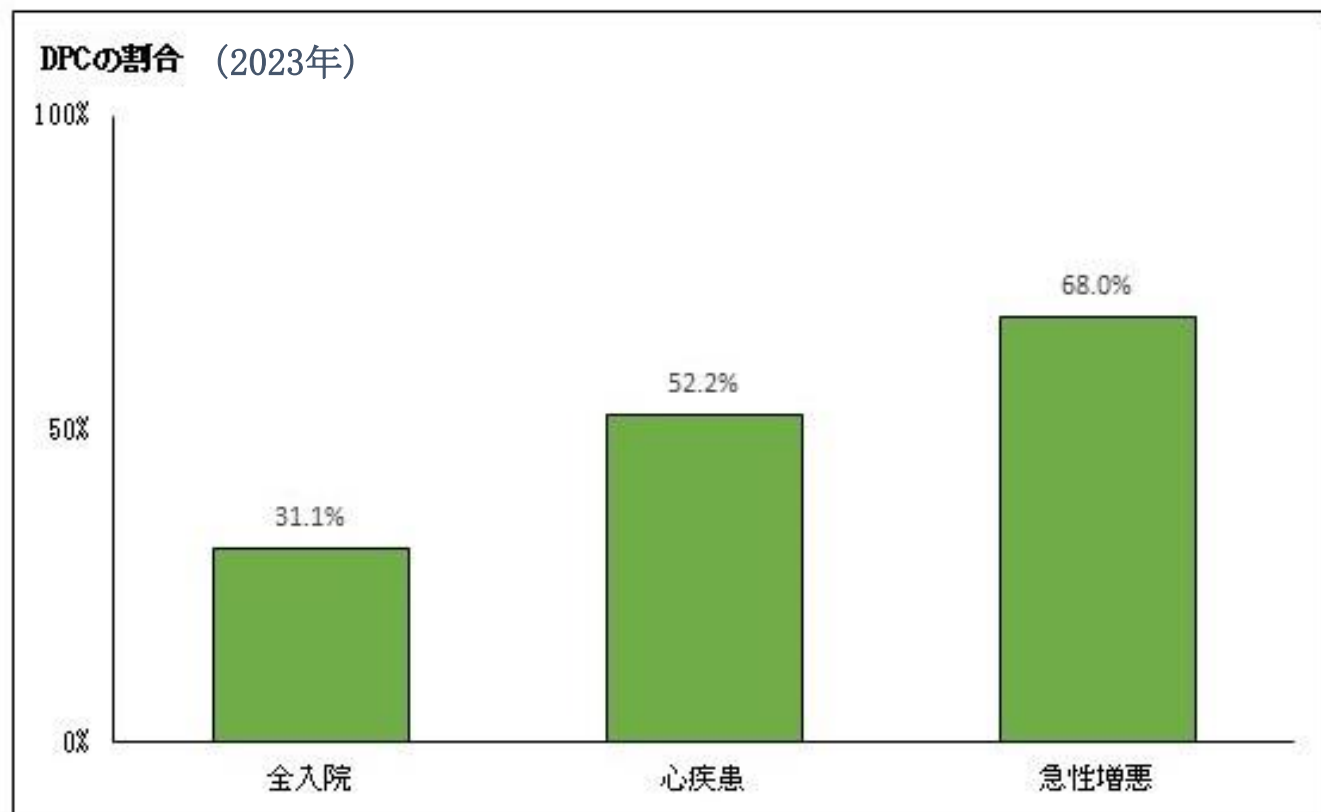
結果 4：男女別状況

男女別の入院件数は女性がやや多いが、被保険者100人あたりの件数は男性の方が多い。



結果 5：医療機関別状況

全ての傷病の入院レセプトに占めるDPCの割合は 31.1%であるが、心不全急性増悪による入院では 68.0 %がDPCである。

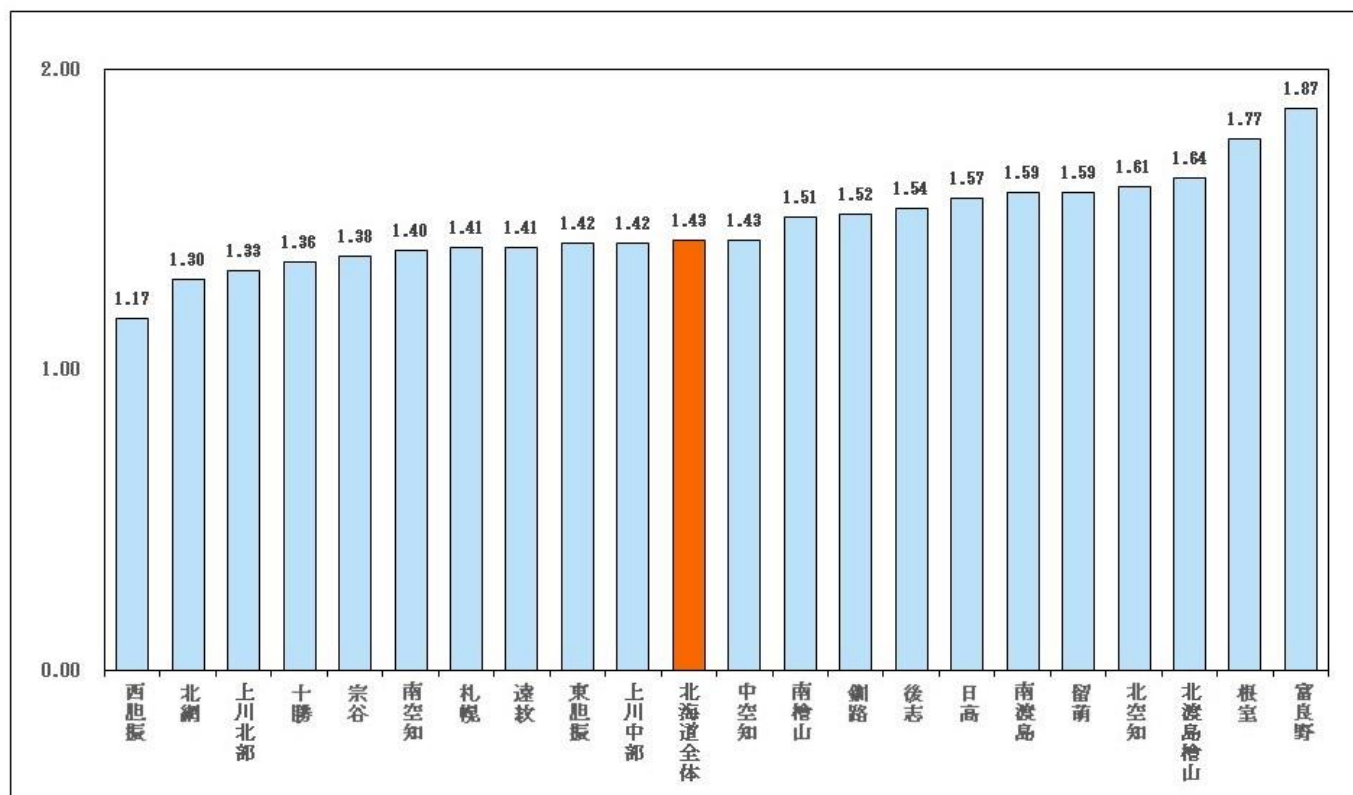


北海道内のDPC届出医療機関は
97機関ある。(2025年2月現在)

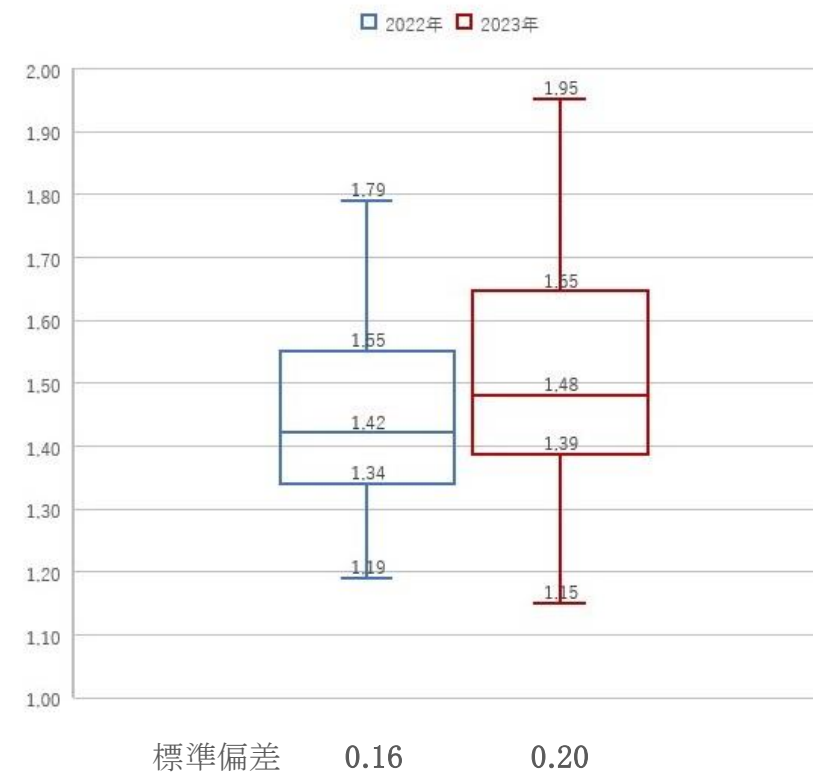
結果 6：二次医療圏別状況

二次医療圏別の被保険者100人あたりの入院件数は、2022年から2023年にかけて圏域差が広がっている。

二次医療圏別100人あたり入院件数（昇順）（2022年、2023年の2か年平均）



2022年と2023年の分布の対比



結論

初めての全数調査により、北海道の後期高齢者医療の心不全急性増悪による入院について、次のことが明らかになった。

- ① 被保険者の増加を上回る率で心不全急性増悪が増加している。
- ② 急性増悪の発生数は夏期に比べて冬期が最も多い。
- ③ 年齢層が高くなるほど急性増悪が増加している。
- ④ 女性に比べて男性の急性増悪が多い。
- ⑤ 急性増悪時の入院先は、DPC医療機関が多い。
- ⑥ 急性増悪の発生状況は、二次医療圏で地域差が拡大している傾向が見られる。

レセプトデータの活用で、数値的に裏付けられた知見が得られた。
心不全急性増悪の再発予防や医療政策への寄与が期待される。